# 栃木部落の沿革

栃木部落は明治四十四年栃木県下都賀郡南部八カ町村の六十六戸が移住開拓したるを以て嚆矢となる抑々移住の動機は足尾銅山の採鉱精錬に伴ひ鉱毒を渡良瀬川に排流して顧みず其の為洪水毎に氾濫して農作物魚族を枯死滅亡せしめ農民生活は極度に疲弊窮乏し加うるに明治四十三年関東地方を襲える豪雨は渡良瀬川の被害蒙りたり時の栃木県選出代議士田中正造翁は一身を賭して此の苦難を打開せんと欲し足尾銅山鉱毒事件として十数年間政府に陳情請願し又銅山経営者古河市兵衛と争いしも遂に谷中村強制買収の方途に一部よつて一段落を告ぐるに至つたのである茲に於て谷中村を追われし集団と鉱毒水害の罹災民中六十六戸の希望者が栃木県庁の斡旋に依り明治四十一赤移民として北海道鐺沸村サロマベツ原野に入植することになり集団十四年四月六日小山駅に集合県庁係官大貫権三郎氏郡役所係員並に栃木県移十字看護婦二名に引率されて四月十四日武士小学校に到着四月二十日丈なす熊笹を刈り分けて現地共同小屋に入り大貫権三郎氏より他部落の名称を授く其の後昼尚暗き原始林に開拓の斧鉞を入れ又住者と共に凡ゆる困苦欠乏に耐え今日の発展を見るに至ったのである

茲に栃木部落開基五十周年記念式典を挙行し記念碑を建立す

昭和三十五年四月二十一日

題字　栃木県知事　横川信夫
碑文　下野新聞社長　福島悠峰